

.....

2015年9月、国連サミットで採択され国連加盟国193カ国が2016年から2030年までに達成すべき目標として「SDGs」が提唱されました。＜資料1～2＞はSDGsに関する抜粋です。これらを用いて以下の問いに答えなさい。

問1. SDGsの掲げる目標＜資料1＞の中から1つを選び、その内容についてあなたが知っていることを具体例をあげて説明しなさい。またその考え方とはなにか、具体的に説明しなさい。

問2. 本学の横浜・健志台キャンパスがある横浜市は、「SDGs 未来都市」に選定されています。＜資料2＞。特に車椅子マラソンなどSDGsの掲げる目標に沿って社会の課題に取り組む活動しています。もし、あなたがSDGsの取り組みを理解してスポーツを通じた社会貢献活動をするならば、どのような活動ができますか。17の目標から1つを選び、その活動を説明しなさい。

<資料 1> SDGs の掲げる目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



出典：国際連合広報センターホームページ (<https://www.unic.or.jp/>)



女性にやさしい大会づくり

今大会から「女性ランナー優先枠」を新設。女性ランナーを対象にしたプレイベント「YOKOHAMA TALK ♥ RUN FOR WOMEN」の実施、託児サービスの実施など、フルマラソンに挑戦する女性のみなさんの目線で参加環境の向上を図っています。

そのほか完走の目安になる距離看板、ペースランナー、施設の整備などを通して、マラソンに参加しやすい会場・コース環境づくりを行い、女性ランナーはもとより“誰もが参加しやすい大会”を目指します。



ボランティアの活動機会の提供

横浜市スポーツボランティアセンターと連携し、大会運営だけでなく、関連イベントにおいても積極的にボランティアの参加を促し、大規模イベントへのかかわりを提供しています。



植物由来資源の積極的活用

植物由来素材を使用した参加者、ボランティア活動袋の製作や制作物にFSC認証紙を活用するなど、環境に配慮した取り組みを展開しています。



グローバルな大会を目指して

海外の参加者と共につくる大会を目指して、「外国人枠」を2015年から約2倍に増加して、1,000人に拡大。横浜開港160周年を記念し、「横浜」や「横浜マラソン2019」の魅力を海外に向けて発信し、世界から選ばれる大会に向けて、外国人ランナーが参加しやすい環境づくりに取り組んでいます。

出典：横浜マラソン組織委員会事務局ホームページより一部抜粋

SDGs アイコン：国際連合広報センターホームページ (<https://www.unic.or.jp/>)